

人と自然の共生を目指して マリンシティ泡瀬

中城湾港(泡瀬地区)埋立事業は、地元沖縄市からの強い要請に基づき沖縄本島中部東海岸地域の活性化を図るため、国、県と沖縄市が一体となって取り組んでいる事業で、二〇〇二年一〇月に着手しました。この事業は、豊かな生物相を持つ泡瀬干潟の一部を埋め立てることからさまざまな意見がありますが、環境に最大限配慮し、沖縄本島中部東海岸地域の活性化及び県土の均衡ある発展のために進めている事業です。

現在、国による工事が先行していますが、十二月からは県も工事に着手する予定です。その事業内容と埋立地に建設されるマリンシティ泡瀬についてご説明します。



人工島と対岸域の一体的な環境整備を行います

●人工島のまわりに人工干潟を創造し、トカゲハゼやクビレミドロなどの希少生物の保全を図ります。

●人工島内にも野鳥園を整備し、干潟や比屋根湿地と連携した一体的な環境整備を行います。

●人工島の対岸域に位置する比屋根湿地では、陸域からの生活雑排水などにより浄化機能が低下しています。また、湿地の陸域化により野鳥の採餌休息の場としての機能も失われつつあります。本事業では、専門家や地元自治会の意見を取り入れながらこれらの機能を回復させつつ整備を行います。また、環境教育や野鳥観察の場としての活用も検討しています。

人が生物と共生する人工海浜を整備します

人工島南側には、海水浴場のない沖縄市に、全長約八百メートルの人工海浜(ビーチ)を創造します。海洋性レクリエーション空間を整備しながら、オカヤドカリなどの生息環境に配慮した自然



▲比屋根湿地
▲トカゲハゼ

沖縄本島中部東海岸地域の活性化の必要性

本県の都市・商業機能は南部の那覇市を中心とする西海岸地域で発展しているため、中部広域の失業率は(一〇・七%)県全体(九・四%)より高く(平成十二年「国勢調査」より)、基地経済に依存しているという状況です。そこで、国際的な海洋リゾート地を目指すマリンシティ泡瀬をつくることで、中部東海岸地域に多くの雇用を確保し、那覇市を中心とする都市圏との格差を解消する必要があります。

また、本事業は、隣接する新港地区に出入りする船舶の航路などをしゅんせつするときに発生する土砂を受け入れるという一面があります。航路の早い完成により、新港地区のふ頭施設が供用開始され、新港地区の企業誘致が進むことが見込まれており、中部東海岸地



マリンシティ泡瀬ってどんな所?

マリンシティ泡瀬は、第一に海洋性レクリエーションの活動拠点を指すべく、マリナーやマリンスポーツレクリエーション施設を充実させます。

第二に国際交流リゾート拠点を指すべく、旅客船ふ頭や交流施設・大規模な宿泊施設を整備し、国内外から集まった観光客と地元市民・県民との間で日常的に交流が行われるような場をつくります。

第三に、情報・教育・文化の拠点を指すべく、研究施設や教育・文化施設などを整備します。

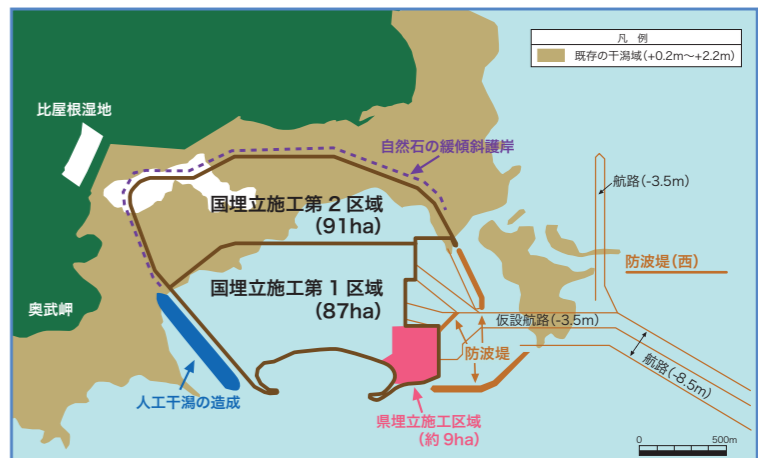
今後の事業予定

国と県による埋め立ては、当初計画では、工事着手から約七年半後に終了する予定となっています。その後は、県が国か

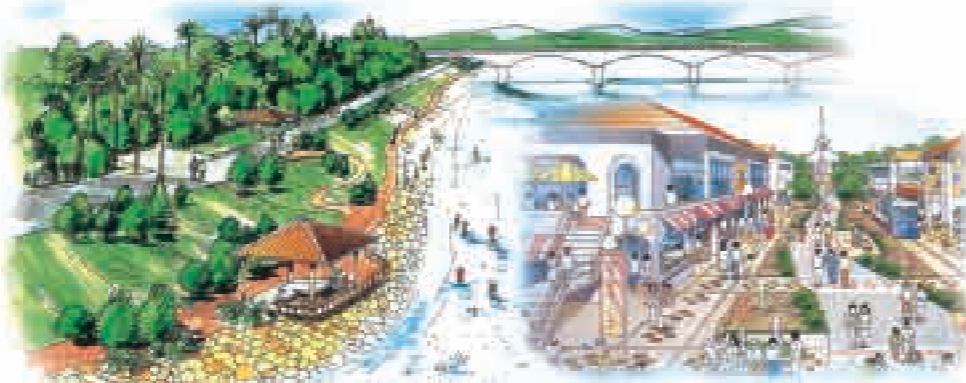
環境保全に努めます 出島方式の採用により 泡瀬干潟の保全を図ります

陸地から約二百メートル沖合に出島をつくるため、約八十%の干潟が残ります。

現在、国は第一区域に着工していますが、干潟が多く含まれる第二区域については、藻類で絶滅危惧種であるクビレミドロの生息地が含まれるため、その移植技術が確立し、また、土地需要の見通しを再度検討した上で、埋立に着手する方針になっています。



※人工干潟、埋立区域近くの3つの防波堤については県施工



ら埋め立て地の約百二十七ヘクタールを購入して地盤改良を行い、うち約九十八ヘクタールを沖縄市に売却します。さらに、県と沖縄市で道路や公園、上・下水道といった社会生活の基盤となるインフラの整備を行うことから、土地利用が開始されるまでには、工事着手から約十年程度を要します。

十二月から本県は、人工海浜の護岸の基礎約二十メートルを施工します。人工海浜(ビーチ)などの利便施設の早期の供用開始を目指し、事業を進めていきます。

お問い合わせ 県港湾課 TEL: 098-866-2395 FAX: 098-866-2468



「ちゅらさん運動」で築く安全・安心な沖縄県



毎月3日は、「ちゅらさん運動の日」